

『信じる者になりなさい』(ヨハネの福音書 20 章 24-31 節) 2023.4.23.

<はじめに> イエスが復活後に弟子たちに現れたとき、トマスだけが不在でした。他の弟子たちが「主を見た」と報告しても、彼は素直には受け入れません。8 日後、トマスも含む弟子にイエスが現れます。それから、イエスはトマスに声をかけられました。「信じる者になりなさい」と。

I 「決して信じません」(24-25)

①安易に信じたくない

トマスは弟子としてイエスの死を悲しみ、悔やんでいたでしょう。だからと言って「イエスを見た」という報告を安直に受け入れはしません。客観的証拠を自ら確認したいのです。あの十字架で死なれたイエス本人かを、自分の目と手で検証できたなら信じると言います。

②懐疑者か？探究者か？

トマスは懐疑者なのでしょうか。彼がイエスの復活を疑うのは信じたくないからでしょうか。疑問を抱き、その真相を究明する蓄積が人間の英知です。再現性の確認は科学的な検証の根幹です。他の弟子たちの証言を裏付ける証拠があれば信じる、が彼の本意です。

II 「信じる者になりなさい」(26-28)

①再現されるイエス

1週間前を再現するかの如くイエスは現れ、それからトマスに自分の目と手で検証するようにと語られます。そのことばに彼はどう思ったでしょう。彼が求めた検証は、もう一度イエスに十字架の痛み苦しみを与えることです。そうしなければ信じない、と彼は言ったのです。

②つながる瞬間

イエスのことばと対応にトマスは「私の主、私の神よ」と答えます。検証したからですか。そうでないなら、何故そう答えたのでしょうか。弟子として接してきたイエスと目の前にいる方が同じであり、常に共におられて今も生きておられる神であると、彼の中で繋がったのです。

③ただ一度だけ

1回限りの唯一無二は科学では扱いにくいテーマです。しかし、一度切りの事柄を偶然や特異として軽視していいのでしょうか。いのちにかかわる事柄は案外一度だけです(ヘブル 9:26-28)。しかし一度では分からない者のために、神は何度も働き掛けておられます。

III 「見ないで信じる人たちは幸いです」(29-31)

①見たから信じる

人とは、何度も繰り返されなければ確信に至らない者です。だから神は繰り返し語られ、御業を示され、人が神を信じるようにと働き掛けられます(ヘブル 1:1-4、Iヨハネ 1:1-2)。今も生きておられるイエスと個人的に出会うことで、人はイエスを信じます。

②見ないで信じる

イエスは約 2000 年前の方です。私たちがイエスを肉眼で見、肉声を聞くことはできません。この方を見るには何を根拠にすればよいのでしょうか。イエスを見た人たちの証言があり、彼らが書き残したものもあります。真実を語る証人の証言ならば信じるに値します。

③信じていのちを得る

イエスを神の子キリストと知ることとはゴールではなく、一つのステップに過ぎません。本書が書かれた目的は 31 節です。本書の記者は、何を目指し願って、このイエスの物語を記したのかを、そこから確認してください。

<おわりに> 23 節で弟子たちのこれからの役割をイエスは告げられています。でもそこにトマスはいませんでした。信じない彼をそのまま残さないように、イエスは現れたのです。神が遣わされた救い主(キリスト)イエスを信じないことこそ罪です。その罪を赦し、いのちを与えるためにイエスは来られました。あなたはイエスと会いましたか。このイエスを神の子キリストと信じますか。(H.M.)

≪思い巡らしの質問≫

Q1.この物語から、人間とはどういう者だと言えますか。

Q2.この物語から、イエスとはどういう方だと言えるでしょうか。